



令和5年第5回定例会報告 Vol.51 新春号

芦屋市議会議員

福井 みな子 市政報告

12月定例会では、市長提出議案の内、教育委員の人事案のみ否決されましたが、市立美術博物館をはじめとする指定管理者を指定する議案5件や「教育委員会で行う事務の権限を市長部局に移すことに関する議案」など、その他の市長提出議案はすべて可決し、12/22に閉会しました。

市長提案の教育委員の人事案は反対多数で否決されました

～「あしや政風会」と「公明党」(議長を除く2人)の7人が賛成しました～

現在、教育委員会は4名の委員により構成されていますが、その中の一人が任期満了を迎えるにあたり、市長によって新たな候補者の提案がありました。

新たな候補者は、某政令市の教育長として教育改革に取り組んでこられた実績があります。特に英語教育については、小中学校9年間の一貫したカリキュラムの下、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく取り入れ、将来、グローバル社会で活躍できる児童生徒の育成に力を注いだ結果、2019年の中学3年生の英語力は全国1位となっています。また、本市でも大きな課題となっている不登校にも取り組んでこられました。

本市在住の方ではありませんが、芦屋市教育委員会と連携協定を締結している兵庫教育大学の経営協議会委員かつ客員教授なので容認の範囲であり、芦屋の教育改革に外部からの視点を取り入れて活性化を図ることは重要であると考えたため、この人事案に賛成しました。私は9月議会の一般質問で、「英語教育の充実に向けて」というテーマを取り上げたところなので、候補者の今までにない取り組みにも期待するところがありました。

JR芦屋駅南再開発事業について

～令和6年春に事業者を再公募。工事完了は11年度になる見通し～



市は、令和5年11月の建設公営企業常任委員会において、再開発事業を担う事業者(特定建築者)を令和6年春に再公募する方針を示しました。それに伴い完成予定が1年程度遅れ、令和11年度になる見通しです。

これは、複数の民間事業者に対するヒアリングで得られた「大阪・関西万博が重なり、すぐに再公募されても建設業界の人手不足から対応できない可能性が高い」との情報のためです。「万博等に伴うリソース不足は建設業界全体に及んでいる」と国も見ており、致し方ないと思います。

また、「交通広場内における東西道路を廃止し、ロータリーの形状・配置を一部修正して広場空間を確保する」という見直し案が示されました。懸念される交通への影響は、現在実施している交通シミュレーションの結果が出てから総合的に判断されることになります。議会への報告は、1月中旬以降になる見込みであり、今後は、市民に向けて、分かりやすくかつ確実な情報発信に努めることが重要になります。



「おくやみハンドブック」ができました。

身近な方が亡くなった際の、市役所での手続きに加え、市役所以外での手続きについてもご案内しています。会派視察で他市の取り組みを学んだことを一般質問で提案し、実現しました。

施設名	指定管理者名
芦屋市立美術博物館及び谷崎潤一郎記念館	小学館集英社プロダクション共同体
芦屋市総合公園	ミズノ・芦屋市スポーツ協会・理研グリーン共同体
芦屋市立潮芦屋交流センター	NPO法人芦屋市国際交流協会

（指定期間は、いずれも令和6年4月1日から5年間）

左記施設の新たな指定管理者が決定

医療助成はこれまで中学生以下が対象で、1歳以上は所得制限が設けられていましたが、令和6年7月以降は、高校生世代まで対象を拡大し、所得制限も撤廃されます。約8千人が新たな助成対象に。高島市長の英断により、大きな前進となります。

こども医療助成を拡充

12月議会トピック

福井みな子の一般質問 (抜粋)

一般質問は、議員が市政全般について質問し、答弁を求めるものです。今回は、次の2項目を取り上げました。



今から備える！いのちに関わる危険な暑さ対策について



質問① 熱中症対策強化などが盛り込まれた気候変動適応法の改正案が令和5年4月に成立し、令和6年春に改正法が施行される。今後、熱中症対策への取り組みの強化が加速されるが、現在、協議は進められているのか？

市長 熱中症対策は、環境、福祉健康、学校園などあらゆる分野に関連しており、組織横断的な体制のもと実施する必要があります。改正法の施行に速やかに対応できるよう、現在、国の動向を注視しつつ、庁内で情報の共有を図っている。

質問② 国土交通省は、緑陰施設を活用した「みどりのクールスポット」を推奨している。公園に緑陰施設を活用したクールスポットを設置することで、まちの魅力を高められるのでは？

市長 公園では樹木により生まれる日陰、緑陰を活用いただくと共に、既存の藤棚等の機能確保に努める。



質問③ 市役所玄関前に毎夏設置される「ドライミスト」は、市民に好評である。公共施設や公園への拡大を要望する。

市長 ドライミストは、稼働中の点検等、有人での管理を要する設備であり、維持管理等の課題がある。そこで管理が適切に行われる総合公園において、スポーツ施設利用者を対象に来年度(令和6年度)設置予定である。

私の考え

消防本部によると本市の熱中症搬送者数は、令和3年37人、令和4年66人、令和5年73人と年々増加しています。特に高齢者の割合が高いことが、気になるところです。市民の健康と命を守るための対策は行政の責務ではないでしょうか。

公共施設における暑さ対策を再考し、例えば公共施設内に熱中症予防を目的とした暑熱避難場を設置するなど、場に合わせた多角的なアプローチを行い、「熱中症による救急搬送ゼロ」を目指していくことが重要だと考えます。

質問④ 「安全でおいしい芦屋の水」のPRも兼ねて、マイボトルに給水できる給水スポットの設置を要望する。

市長 現在、市役所本庁舎内に市民の方もご利用いただける給茶機を設置している。

今後機器の更新に合わせてマイボトルに給水しやすいタイプの機器を導入していく。



睡眠教育について



<睡眠教育とは？> 略称で眠育とも呼ばれており、睡眠の仕組みや眠りの持つ力などの正しい知識と習慣を身に付ける教育を指します。文科省の調査により「塾や習い事、家庭でのゲームやスマートフォンの普及に伴い、睡眠時間が十分に確保されていない子どもが多い」と言う実態が明らかになり、教育機関では睡眠教育の導入を進めています。OECD(経済協力開発機構)によると、日本人の平均睡眠時間は7時間22分で、加盟30カ国のワースト1位。圧倒的に睡眠時間が不足していることが判明しました。その傾向は子どもたちにも表れています。

質問① 小中学校の睡眠教育についての認識は？

市長 睡眠は成長期における体と心の成長に欠かせないものであり、睡眠の重要性と正しい知識を身につける睡眠教育は大切であるとし、認識している。

質問② 本市で児童生徒の健やかな成長を支援する際、睡眠教育の導入が必要だと考えるが、市の見解を問う。

市長 本市の睡眠教育は、小学3年生と中学1年生の保健の授業で、健康教育の一環として行っている。今後も他市の事例を参考にしながら取り組んでいく。

私の考え

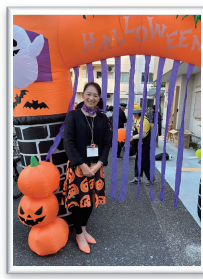
堺市では、不登校の小中学生が9年連続増加。睡眠不足が子どもの不登校を招く一因であることに着目し、睡眠の重要性を学ぶ授業や面談を行いました。その結果、最初に眠育を導入した中学校では、不登校生徒の半数に改善が見られたそうです。子どもの寝不足は脳と身体、精神の成長にも影響すると言われています。眠育は食育と同様、生きるうえでの大切な学びになるのではないかと考え、睡眠教育の導入を要望しました。

メール fukui.minako@gmail.com ホームページ <http://www.fukui-minako.com> ブログ <http://www.fukui-minako.com/activityreport/>

(Profile) H23年 芦屋市議会議員初当選 H30年 市議会副議長 R元年 監査委員 R2年 総務常任委員長 R3年 総務常任委員長 R5年 4期目当選

Photo Report

浜町ハロウィンイベント



会派ニュースを配布

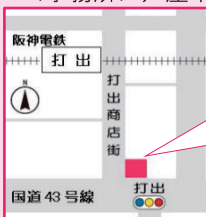


今年の干支は「辰」。十二支の中で、唯一想像上の動物であり、辰をもたらす年とも言われるようです。新たな始まりによる変化に期待したいものです。2024年が素晴らしい一年になりますよう、お祈り申し上げます。

福井 みな子

編集後記

市政報告 Vol.51 R6年1月発行
＜事務所＞芦屋市打出町1-13



事前にご連絡のうえ、お気軽にお越しください。

TEL & FAX : 34-0240